

■ マッチングまでのスケジュール

14

5月下旬

受入先企業訪問と依頼

6月下旬

受入先企業決定

6/18 (水) 説明会

学生に対し、プログラム全体を説明

6/24 (水) エントリーシート締切

⇒学生の選考

7/9 (水) 決定者ガイダンス

⇒学生の就業実習先も決定

■ 学生のスケジュール

| 日時 | 内容 |
|----------------|---------------------------------------|
| 7月9日(水)5限 | 決定者ガイダンス, 事前学習① 顔合わせ・履歴書等書類の作成準備 |
| 8月6日(水)2~3限 | 事前学習②【学生交流準備】 学生交流:プレ交流用プレゼン練習 |
| 8月7日(木) | 事前学習③【4大学プレ交流】 遠隔講義システムにて, 大学紹介 |
| 8月28日(木) | 事前学習④【短期就業体験準備】 マナー研修, 企業研究, 書類作成等 |
| 9月2~4日(火~木) | 学生交流(4大学合宿)【東京】 |
| 9月8日~19日(平日) | 短期就業体験(3日間) |
| 9月24日(水) | 事後学習① 振り返り, 報告会の説明 |
| 10月8日(水) | 事後学習② 報告会の準備:プレゼンテーションの作成とチェック |
| 10月23・24日(木・金) | アドバンスト・プログラム報告会 |

■ 短期就業体験 就業先企業様コメント

16

迎える側は大変だがこのような体験は“**今時の学生**”にとって**おおいに意味**がある。

他学にはみられない取り組みで大学の考え方も理解でき、かなり評価できる。

本プログラムへの評価はかなり高い。本人はもちろんのこと、大学、企業にとってもプラスになる、殊に企業においては**学生とのミスマッチを早期に解決できる点で大きなメリットが出てくる**と思われる。1年生のこの時期で実施することで教育上の効果が高まるものと考える。

学生たちには、ビジネス社会の現場で多くのものを自分自身の中に取り入れようとする意識の高さを感じる。低学年でのこのような取り組みは興味深い試みである。

■ 短期就業体験 就業先企業様コメント2

17

学生の就業意識の高さには驚きを覚え、時間を守ることや挨拶などの基本的なことができていたため、大学内でよく指導ができています。今回の就業体験を通じて学生が自分の方向性についておぼろげながらも見えてきたのであれば良いと感じる。自分もいいヒントを得る機会になった。**低学年での取り組みは教育的な効果が期待できると考えられる**ため、来年度も実施するのであれば協力したい。

1年生を対象にしたプログラムは珍しいと思うが、今の学生には早めに意識させることは重要なのであろうと考える。来年度も協力は可能。今年は支店長対応だったが、来年は一つ下のポジションの社員に対応させたい。**社員教育にもつながる。**

仕事は華やかな部分もあるが、地味なことの方が多い。それに耐えられるのは、仕事が好きだから。どんな仕事に就いても「自分の業界が好き。」と胸を張って言えるようになってほしいと伝えている。採用活動に関わって決め手になるのは「コミュニケーション能力」だと感じている。工業系の大学にあっても同様で、この能力をいかに育てるかがポイントであると思う。学生は、挨拶がよくできており、人の話をよく聞こうとする姿勢が見て取れた。

■ 短期就業体験 就業先企業様コメント3

次の年度も継続が叶わなかった企業様

インターンシップを行うには、**1年生ではまだ物足りない(幼い印象)**。今後については、上位学年で住宅業界に興味のある学生であれば受け入れる可能性はある。本学の本事業に関して趣旨は理解しているが、継続的な協力に関して確約はいただけなかった。

■ 学生指導において重視している点

19

1

キャリア教育の一環であること

⇒ インターンシップは独立したものではなく、キャリア教育の一環として1年前期からずっと繋がったものであること

2

インターンシップの意義を語り続けること

⇒ 1年前期から、インターンシップについて意義を語る。
学生にとっての気づきのポイント、成長のタイミングを逃さない

3

学生の変化(体験者)の姿を見せ続けること

⇒ 友人、先輩の成長を実感させる。成長モデルを見せることで、自分もできるかもしれない、やってみたいと思わせる場を作る。

目標

当たり前前のことを当たり前前に行ける社会人

とする
人





アドバンスト・プログラム報告会



■ 指導に苦勞する学生

- 就業に対する意識が低い学生
- 不安が高く何度も相談に来るような学生
- スケジュール管理が甘い学生
- プレゼンテーションに自信がない，作成できない など



グループ活動を取り入れている

自分ひとりでは忘れてしまうかもしれない手続きなどをグループ全員で確認するような仕組みを作っている。お互いが支え合っている関係を作る。



■ 学生を見ていて・・・

● 1年生からの指導は, 3年生になった時に大きなアドバンテージとなる

教員からの指導においても・・・

1年次から学生を知っていると, 学生の変化を伝えることができる

● 何か1つで気づくものではない

やはり段階的なステップが必要

すぐに実践的に行うのは難しい

自分のスキルを客観的に見ることができるようになることが必要

1年次に向上したモチベーションを如何に持続させるかは, さらなる仕掛けが必要

■ 就業力育成プログラム

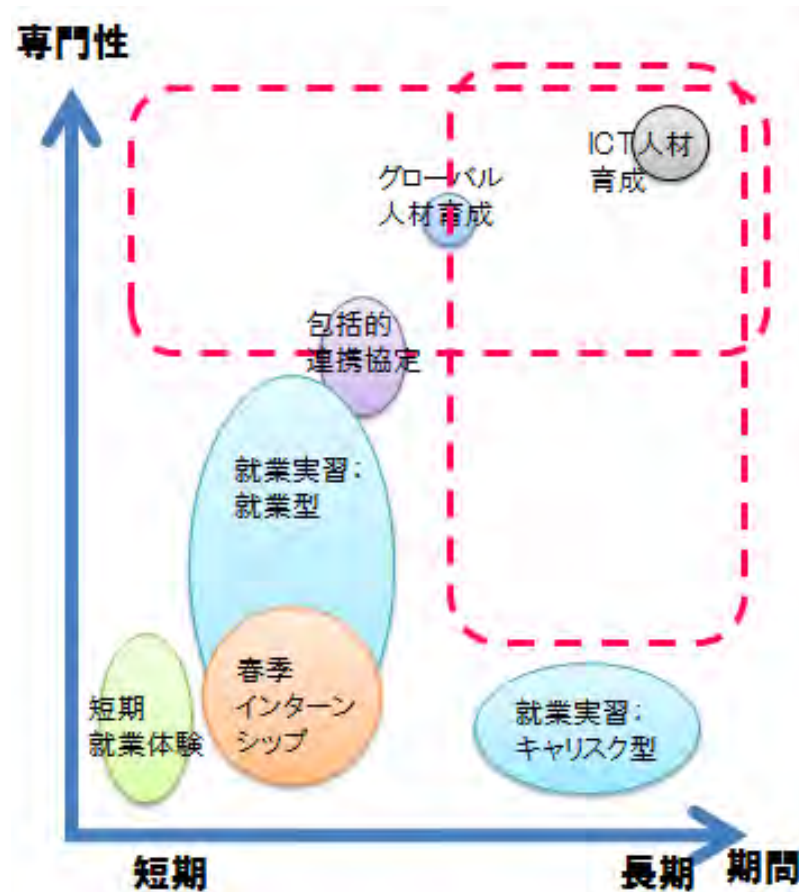


平成24年度開講

| | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|-------|---------|--------------|-------|------------|---------|----|------|----|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 志向する力 | ★キャリア形成 | | | | 課外の就職支援 | | | |
| 共働する力 | 日本語表現 | ★コミュニケーション基礎 | | | | | | |
| 解決する力 | | | 技術者倫理 | → | | | | |
| 実践する力 | カリキュラム | | | 就業実習 | → | | 就業実習 | |
| | | | | ← 特定専門科目 → | | | | |

1

インターンシップの種類の実



- ⇒ 中長期, 課題解決型など, 多様なインターンシッププログラムの開発
- ⇒ 企業様のメリットを提示していく
- ⇒ 専門性の高いインターンシップの提供

1

インターンシップの種類の実

- ⇒ 中長期, 課題解決型など, 多様なインターンシッププログラムの開発
- ⇒ 企業様のメリットを提示していく
- ⇒ 専門性の高いインターンシップの提供

2

マッチングの工夫や役割分担

- ⇒ インターンシップの種類に応じた学生とインターンシップ先のマッチング
- ⇒ 支援する側の役割分担

3

学生評価を行うためのツールの作成

- ⇒ 学生が自分のことを客観視でき, 企業様からも評価可能な指標の開発, 指導に活かす方法の検討



ご清聴ありがとうございました。